

夏——光の季節。

夏山の、尾根で迎える朝焼け、  
雲にたなびく力強いそのあかね色。  
高原の樹もれ日は緑色。  
遊びつかれてハーバーに向かう、  
ヨットを追いかける水平線のたそがれは朱色。  
南国の波を射し、  
ダイバーをとりこにするのは魔の青白い光線。  
そして、

大都会の真昼は真白ののっぺらぼう。  
高速にもえたつかげろうは、  
透明なオパールのように。  
あなたの夏の思い出は何色ですか？

目に映る光  
心のひだにさしこむ光  
遠くに見える光  
光のまっただなかにいる、あなた——。



「さんしょう太夫」 前進座提供

前進座青少年劇場上演の

# 「さんしょう太夫—説教節より—」 の照明はこうする

寺田義雄 (株)東京舞台照明

「さんしょう太夫」の話はあまりに有名でもう説明するまでもありませんね。皆さんも小さいころから、母親に語ってもらったり、本を読み聞かせてもらったり、あるいは自分で読んで経験があることでしょう。

古代から中世にかけて存在した<sup>せんみん</sup>賤民を<sup>せんじよ</sup>散所といいますが、彼らは集団生活をし、寺社貴族につかえて雑役をとめるのを業としていました。また、年具輸送の必要上、<sup>やしな</sup>山科、坂本、淀、山崎など交通の要所に置かれていたわけですが、ここに登場するさんしょう太夫も、京の御領家に近在の荘園から年具を集めては運び、塩をつくっては運ぶ散所の長者として帝の権勢をかさにき、あたり一帯にニラミを利かせていた人物です。諸方の人買いから人を買集めては奴婢としてこき使っていた悪漢として描かれています。

一方、主人公のあんじゅとづし王丸は、平将門の孫にあたり奥州五十四郡を治める判官を父親に持っていましたが、その父は帝の勸気に触れて築紫の安楽寺という遠方に流されている身の上。残された母玉木とこの姉弟が奥州からはるばる父を見舞おうとして、越後の国直井の浦というところで母子バラバラに人買いに買われてしまうというのは周知の通り。母は佐渡へ、姉弟は丹後国、由良の湊へというわけです。このあと、姉弟が奴婢とし

て辛苦をなめつくしていく事のでん末は、もう皆さんの知識にゆだねるとして—。

「さんしょう太夫」は説教節の著名な語り物の一つです。説教節というのは、もともとは仏教の経文から出たもので、平安時代には説教師といって、弁舌のたつ僧侶が経典を面白く説き聞かせることを職業としたものです。

鎌倉・室町時代になると内容も平俗になり音楽的な節まわしがついてきました。江戸時代になると、もうすっかり音楽化して、大道でささらをすり合せながら興行するなど、進歩というか、墮落というか、形が変わってきたのです。その後浄瑠璃と結びつき、祭文と結びついていったのですが、「さんしょう太夫」はその説教祭文のなかでも、とりわけ人気のある語り物だったということです。

さて、「さんしょう太夫」の台本を渡されてから、本番にたどりつくまでに、照明家の私たちがたどった跡を、台本をひっぱり出しながら、かいつまんで追っていきたいと思います。

## 1. 台本を読みこなす

本番にこぎつけるためには、舞台を構成する各スタッフやキャストと何度も打ち合せを重ねなければなりま

せん。が、照明としては依頼されてから先ず最初に台本の素読みをします。あらすじをよく呑み込んだら、こんどは照明プランを作りに必要なポイントを書き出す作業に移ります。音楽物の場合に、曲を何度も聞きこなすのと同じですね。

どんなところをチェックするのか、具体的に台本をひっぱり出してみましょう。

台本最初は登場人物の紹介です。以下引用文です。

舞台上に登場するのは、10数名から20数名の説教師の集団である。劇は、この説教師たちが、簡単な服装で、次の役々を受け持って、語りつつ演ずる形で展開する。一人の説教師が何役も兼ねることは、むしろ望ましい。

あんじゅ

づし王

二人の母玉木

うば竹

山岡太夫

佐渡の二郎

宮崎の三郎

さんしょう太夫

その息子二郎、三郎

婢伊勢のこはぎ

奴藤太、国平、犬丸

婢よしの、ふるな

国分寺の聖

太夫が館の家人一、同じく二

丹後守に従う侍

彼らが登場する舞台には、まつりの庭のような空間があればよい。この空間に何かをつけ加えたり、空間そのものを動かしたりするのは、たぶん奴婢たちを演ずる者の仕事だろう。

そして、彼らの語る、歌とも語りともつかぬことばは、正しく説教節である必要はないが、現行の説教節、節談説教、祭文、浪花節、各種の口説などをふまえた、日本の語り芸の音楽的系譜をひきつごうとするものであった。

というのが、作者の美術・音楽に関する要望です。私がチェックした部分は、最初から二行目の「簡単な服装で、ということと、まつりの庭のような空間、というこ

とです。どんな人が何人くらい、どんな服装で、またどのような場所に登場するのか——、いわゆる5W1Hに相当するものを赤でチェックしたわけです。

さて、物語りのプロローグが始まります。以下引用文。

暗黒の中から、歴史の彼方からのように、ささら、びんざさら、四つ竹、鍬金、鉦、太鼓などを鳴らしながら説教師たちの集団が進んでくる。あるいは彼らは、この世のものと、は思えない呻き声を発しているかも知れない。ようやく舞台にたどりついた彼らは、観客と相対して語りはじめる。

帰命頂礼 ありがたや

大慈大悲の 地藏尊

ただいま これより語り申す

御物語

国を申さば丹後の国

金焼地藏の御本地を

あらあら説きたて 弘め申さん

説教師たちの中から、あんじゅづし玉の母玉木、あんじゅ、じし王、うば竹の四人が正面へ出る。

というところまでが、芸居が始まるまでの展開です。さて、このくだりでは、暗黒の中から、歴史の彼方からのように、という部分に先ず目を止めます。とっさのイメージでは、暗黒の中に人物が見える場面が浮かびます。

また、この世のものとは思えない呻き声を発して……など、大切なチェックポイントになります。皆さんも感じられたでしょう。少なくとも現実的でない、歴史のヴェールをかぶった、夢の中のできごとのような、モヤモヤとした神秘的なものが迫ってくるのを。

ですから私も、そういう雰囲気を表現したいと思うわけですが、演出なり美術家なりと意見が合うかどうか、その打ち合せは、こういったチェックが終ってから行なうのですがさて、台本の方はこの四人が正面へ出て、玉木が具体的に自分たちの氏素性を名のり始めると、急に現実的な様子を帯びてきます。それにともなって、今までの段階では感じられなかった時間の経過が意識されてくるのです。

要するに、ここで私が申し上げたいことは、台本の中にある何気ない台詞、あるいはト書きから情景なり感覚を微妙にすくい上げるのが第一の仕事だということです。眼光紙背に徹する読み方ができるように、自分を訓練す

ることです。

同じ「さんしょう太夫」でも、台本以外の、絵本や映画、森欧外のものとの違いも読み比べてみることは台本を読む前の下調べとしても必要なことでしょう。

## 2. 第一回スタッフ会議

演出、美術、音楽、照明、効果、振付、舞台監督の各スタッフが初めて行なう会議です。この段階では、演出の意図なり、方向をよく聞いておきます。この会議で、演出が出した意図というのは、ざっと次のようなことでした。

「さんしょう太夫」は非常にポピュラーな話であるが、この台本は説教節からとったもの。説教節のもつ中世人間のエネルギー、無名の人の腹底からの叫び声を表現したい。演技面でも、リアルなものから様式的なものを発見していきたい。従って装置も、山が出てきてもいわゆる山そのものの形でなく簡素な表現をとりたい。合せて照明も簡潔にして欲しい、といったことでした。

いってみればこの会議は、この劇をどのように印象付けるのか、というイメージの確認会です。また、この劇は、だれがどんな場所で見のかということも念頭に置かなければなりません。

今回の公演は、中学校や高校での公演もできるもので

す。だいたい同じような舞台が想定されますが、少しずつ条件は変わってくるでしょう。つまり、様々な舞台を想定しているものです。

## 3. 第二回スタッフ会議

この会議は、たいてい美術のラフスケッチ＝下積み＝が出来上がる大切な会議です。演出、美術、照明、舞監の四者会議になります。

第一会議で互いのイメージを確認し合ったつもりでも、各スタッフのイメージが全くくい違って出て来るものです。美術、照明、舞監の可能性の中で、演出家のイメージに近づける討論をしっかりと繰り返しました。

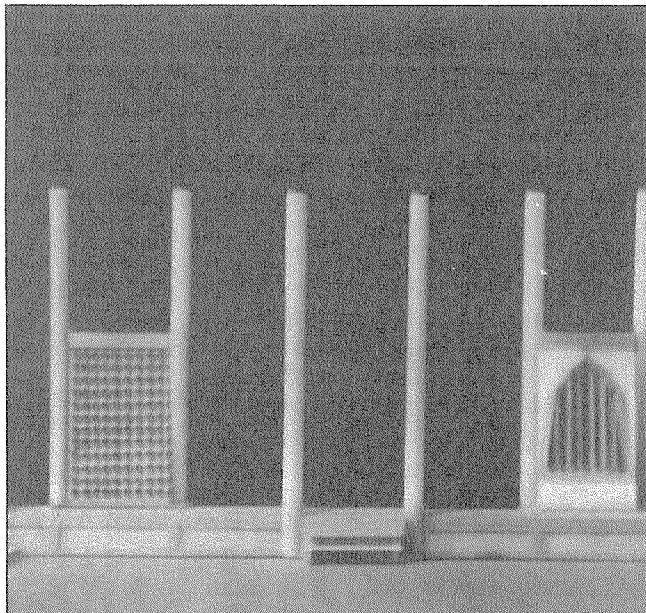
## 4. 第三回最終会議

装置の方で道具帖を作ります。それをもとに舞監は平面図を作るのですが、その前に図面ではイメージがつかみにくいので模型舞台をつくり、こまかい検討をします。写真＝A・B。

照明は、道具帖をもとにして場割表をつくります。

さて、芝居の方は道具帖ができた時点で立ち稽古に進みます。それまでは、役者は第一会議のころから本読みを続けているわけです。

写真A



写真B



### 5. 立稽古を見て、演技の行動半径を確認する

道具帖と場割表を手に、照明家は役者の立稽古をじっくり見る段階に来ました。どの役者が、どの位置からどういうふうに立ち回るのか、行動半径や位置をよく見て、場割表に記録しておきます。台本を見て互いに頭の中で進めてきたことと、実際の立稽古を見てから感じることとは、やはりズレはつきものです。

### 6. 四者会議再び

場面のつなぎ方の検討会です。

FIにするのかFO、OL、SI、SO、明転か暗転か等々。台本やト書の修正点を確認します。

### 7. 下ざらい(荒い通し稽古)

ここで初めて音楽、効果、振付が入るので、また照明のイメージが変わってきます。これを見ながら、照明

のラフスケッチをつくり、同時に大ざっぱなQシートを作ります。

### 8. 照明デザイン

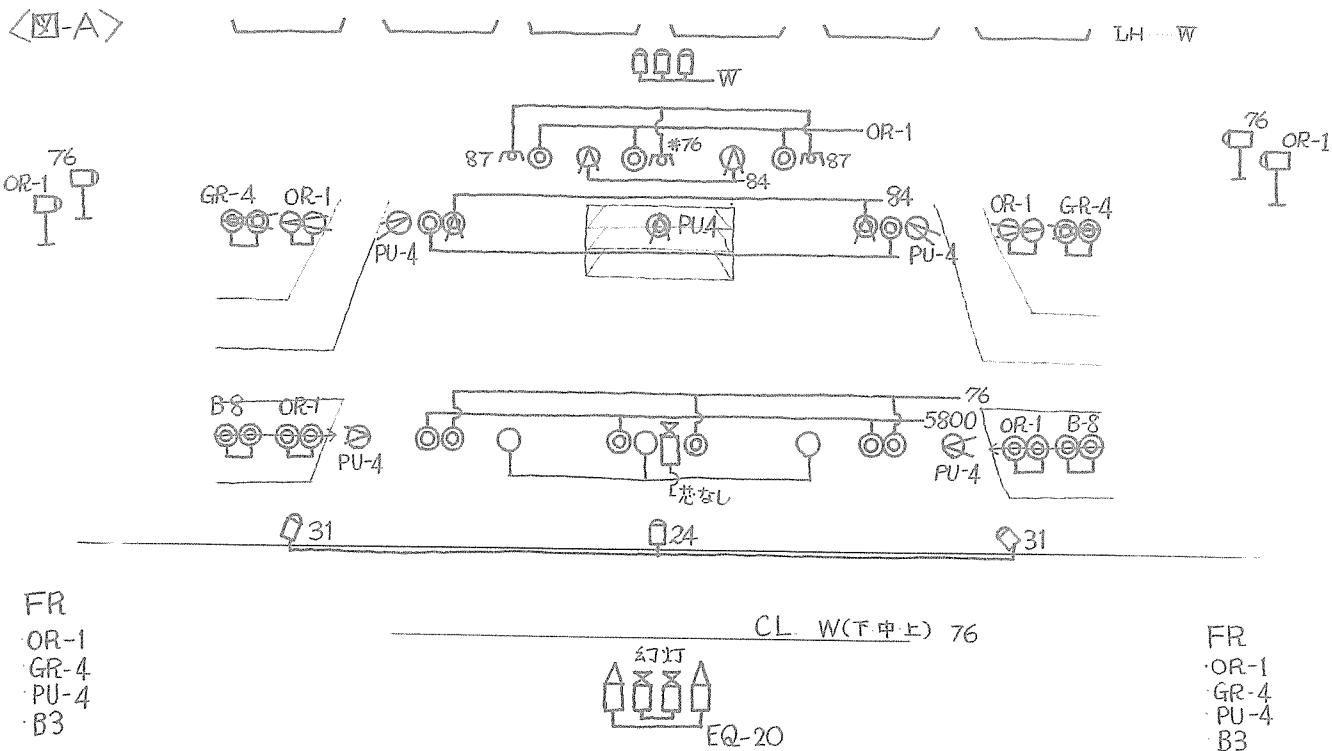
場割表に、器具を吊る位置や方向を記号で記入します。例えばこんなふう입니다。(図A参照)

### 9. 最終的な総ざらい

最終の通し稽古が行なわれます。このときに、自分の机上プランがこれで果していけるのかどうか確かめるのです。細かい色も決めてしまいます。

チーフオペレーター、演出、舞監と共にキッカケもこのとき細かく決めます。一枚になった総合仕込図はこの段階で作成されます。

最初に紹介した舞台の展開の場面について、Qシートの実例をお見せしましょう。



	CL	CL	CL	CL	CL	FR	FR	FR		1 SUS		1.2 Sus	Back	客席	1.3 Sus	SS	UH	UH	語り	○				
	76	GR 4	下	W 中	上	OR	PU	B-3		⊙W	5800	76	OR	GR4	中	外	87 67	⊙	OR-1	W	W	PU 前	32	
客入れ																								
客電 ↓ 2071 ↗																								
Q1																								
Q2																								
Q3 音響リ ↓ 2723 ↘			8	10	8	10	8		8	10	8		10	10	0								7	
Q4 直井の齋	10	10	↓	10	↓	10	0	10	0	↓	0	10	10	↓	10	↓	0				10	10	10	10
Q5 親子別れ	↓	↓	0	0	0	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
Q6	↓	0		7		0		0		7		0	↓	↓	7		↓				0	7	7	7
Q7	7			5						5		7		0	4		↓					3	↓	↓
Q8	0	↓		3						3		0			3		↓						↓	↓
Q9				0						0							0						↓	↓
Q10 さんしょう館																	8	8					↓	↓
Q11 全体			10	10	7	10	10		10	10	7		10		10	10	↓	↓					10	↓
Q12 巻きつね渡			8	8	5	0	0		8	8	5		0		0	0	0	0					↓	↓
Q13 山と浜(A)	10	10	10	10	10	10		10	10	10	10	10	10	10			10	10					↓	↓
Q14 " (B)	0	↓	↓	0	0	0		0	↓	0	0	↓	↓				↓	↓					↓	↓
Q15 山 (A)		0	0						0				↓				↓	↓					↓	↓
Q16 " (B)		10										10											↓	↓
Q17 F-O																							7	↓
Q18 さんしょう館			8	8	5	7	8		8	8	5		7		8	8	5	5					10	↓
Q19 FO			0	0	0	0	0		0	0	0		0		0	0	0	0					7	↓
Q20 浜	10	10	10	10	10	10		10	10	10	10	10	10	10			10	10	10	10	10	10	↓	↓
Q21 F-O	0	↓	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	↓	↓
Q22 文ごぞり	5		6	8	6				6	8	6	5	7		7	7							↓	↓
Q23 焼き釜	10		0	6	0	0			0	6	0	10			5	0							↓	↓
Q24	7			0						0		7			4		10						↓	↓

## 10. Qシート・総合仕込図・場割表をチーフオペレーターに

Qシートを総合仕込図・場割表を受けとったチーフオペレーターは、これをもとに器材、色、その他舞台稽古の準備をします。

## 11. 基本仕込み

ここからが現場の仕事です。最初にサスの吊り込み、ボーダーに色を入れるなどの仕事を、チーフオペレーターの指示のもとに何人かのオペレーターが行なうのです。これが終ると、大道具に舞台を明け渡します。大道具の基本仕込みが終了しだい照明の基本的なサス合せやシーリング・フロントのスポット合せを行ないます。また、

各場ごとに、あたまから道具を飾り明り合せということになり、操作用紙に記入します。

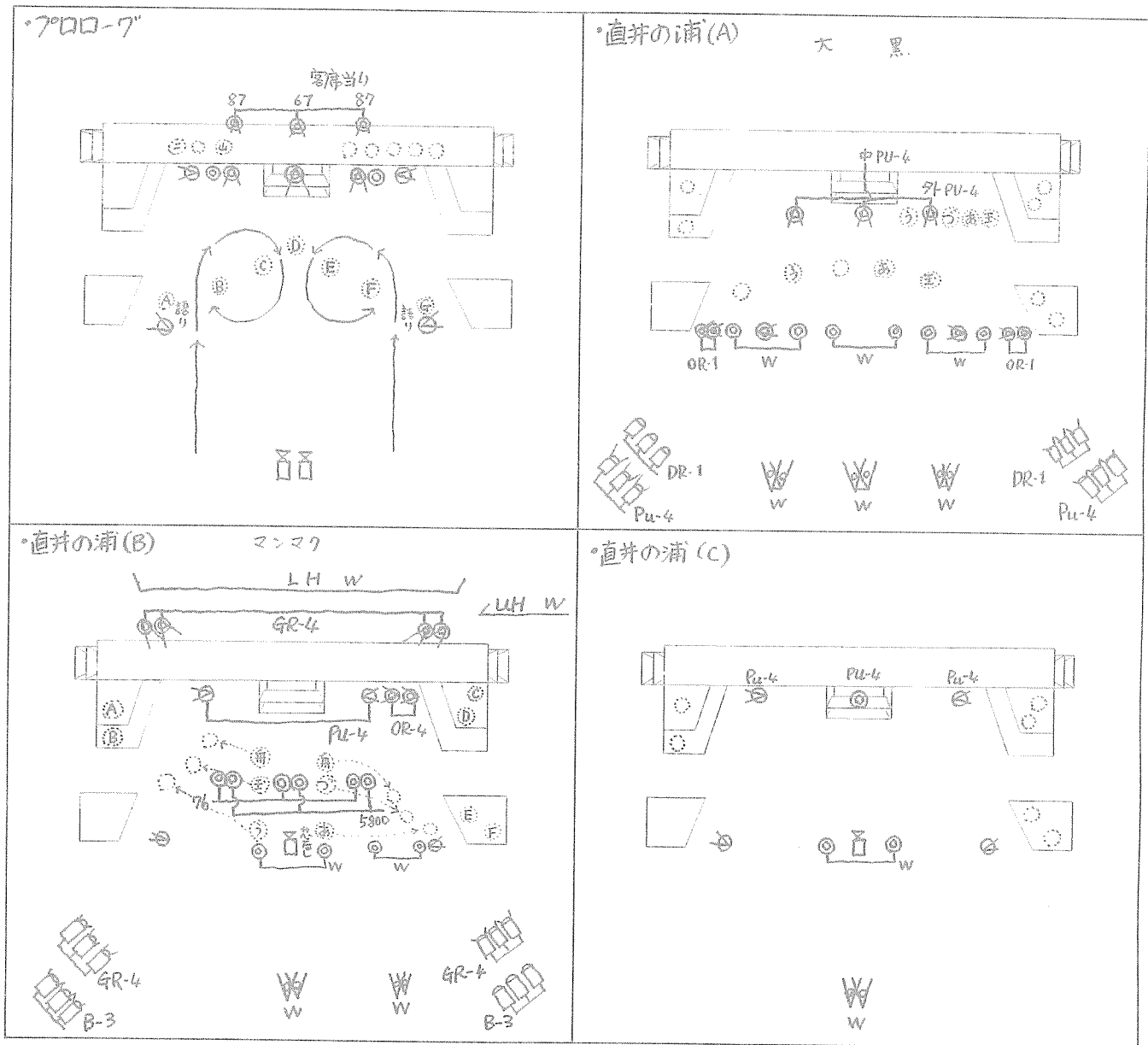
## 12. 居所合せ稽古

せっかく色々仕込んでも、肝心の役者に明りが当らなければどうにもなりません。そこで、役者にあたまから実際に動いてもらって、明りが当たるかどうか確認したうえで、各場面ごとの稽古を進めていきます。

部分直しはここでキッチリしてしまいます。

## 13. 通し舞台稽古

こんどこそ最終回。次回はいよいよ本番ですから、修正点は慎重にチェックしていきます。



特に、照明の微妙な明暗、芝居の場面ごとのF I、F O等のスピード、センターフォローの大きさ及び明暗の具合をチェックします。

できればこういう稽古を何度も繰り返すことが、スムーズな芝居づくりには必要といえます。

◇ ◇ ◇

以上、順序を中心に語ってきましたが、例えば「一瞬のうちに場面は移って、直井の浦」というト書があって

も、他の劇のように道具まで変えてしまったわけではなく、音楽と照明等で場面の变化をつけ、役者の演技で表現したのです。このように観客の想像力に任ねる部分の多いやり方は、この「さんしょう太夫」全体を通じて、大事に扱った事柄でした。

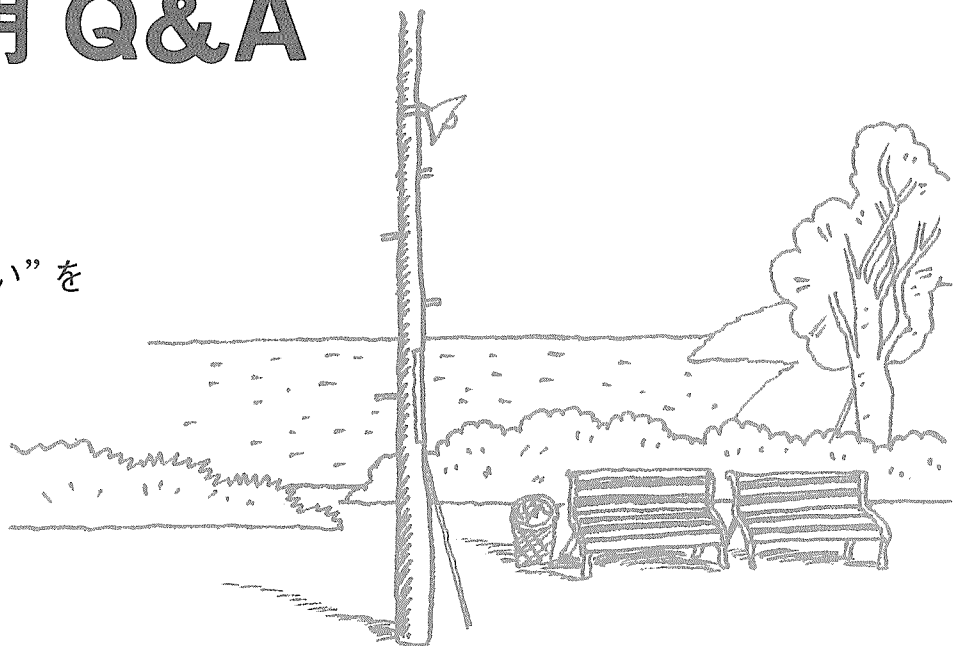
とりとめもなく書きましたが、皆様の芝居作りに少しでも参考になれば幸いです。

# 舞台照明 Q&A

## 〈No.1〉

土屋弘光作

“おれたちの出会い”を  
素材にして……



### まえがき

学校演劇やアマチュア演劇関係者から舞台照明とメーキャップが全く解らないとつねづねいわれていた事が発端となって、マルモライティングニュースを発刊しました。舞台照明には、どんな器具が必要か、何処に設置するかなどの基礎知識についてはお解りになった事と思います。しかし、演劇サークルの照明担当者である貴方が、今度上演する芝居の照明プランが作れるだろうか。作れないと答える読者の方が多いのではないのでしょうか。これではせっかくの立派な照明設備も宝の持ちぐさです。そこで、マルモライティングニュースでは、アマチュアの方に照明プランを作っていただき、誌上でプロの照明家に添削していただきました。そして照明プランの作り方を一緒に勉強してみませんか、今回は急な企画だったので、編集者の方で土屋弘光氏の“おれたちの出会い”を素材に選ばさせていただきました。

“おれたちの出会い”は、全日本アマチュア演劇協議会が公募した、アマチュア演劇のための脚本コンクール昭和53年度入選作です。作者の土屋弘光氏は、静岡県沼津工業高校の先生で、マルモライティ

ングニュースの読者でもありますし、昨年、静岡県東部地区高校演劇連盟主催の舞台照明講習会でもお目にかかった事もあります。脚本の中に溶暗などの指定があり、舞台照明もかなり重要な役割をめています。

脚本の内容は、海岸へタバコをすいにくる、あまりまじめでない高校生A、Bと、父親がスモン患者で、看病に疲れ自殺しようとしている少女の出会い、そして一流校を目指すガリ勉の学生をからませる。少女は、“俺達には青春があるんだ、きっと今に良いことがある”という高校生の励ましにもかかわらず、自殺してしまう。

利己主義で無関心派を象徴しているガリ勉の学生は、“生きる生きるといったって希望がなければ生きられない”といい、少女の自殺を助けてしまう。最後に、鴨長明の方丈記の冒頭文を引用して無情感をうたえています。

演劇は、演出、装置、衣裳、効果、小道具、舞台監督などのスタッフと演技者などが協力して創るものですが、今回は習作ですので舞台照明の立場からのみ考えて、照明プランをたてていただきました。

(編集より)



Q

# “おれたちの出会い” の照明プラン

〈全日本アマチュア演劇  
協議会発行創作脚本集1979  
より〉  
F・U生

私は埼玉県某高校演劇部に所属したことがあり卒業後はアマチュア劇団で演劇を楽しんでいます。高校時代からマルモの器具を愛用しており、時々マルモのお店にうかがい、いろいろ面倒をおかけしております。先日、たまたまマルモにお訪ねした時、今回の企画をやって見ないかといわれ、居合せた東京舞台照明の方のアドバイスをいただき、この企画に挑戦することにしました。

早々渡された脚本“おれたちの出会い”を何回か読みました。そして基本的な事柄を書き出しました。

- ①時代 現代
- ②場所 海辺と脚本の初めに書いてあります。
- ③季節 台詞の中に  
父親…秋が…早いなァ1年たつのは、女房のやつ、どこへ消えちまったんだか。いまごろは若い野郎と……とあります。また“満月の月の出だったら”

などの台詞から、10月中旬頃でしょう。

- ④天候 ト書に水平線がくっきり浮き出している、とあるので快晴でしょう。
- ⑤方向 最後に真赤な夕映えがあたりを包んでいる、上手を夕日の方向とします。

照明器具は DF-500W 16台  
CEC-500W 8台  
CEC-1,000W 4台  
CT60W×12灯 3本  
NUC-200W 16台

調光器は T-15 1台を使って

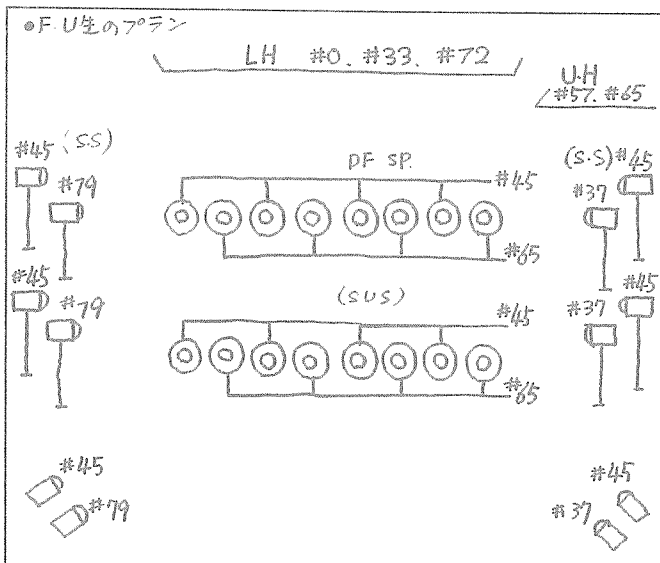
- ①海辺の空地 水平線が鮮かにくっきり浮き出ている
- ②波しぶき一段と大きく砕け散る  
夕暮れ、すっかりあたりを暗くしていく
- ③次の日の午後
- ④波は吠えるようにうねり返っていく  
すでに日は沈もうとしている  
真赤な夕映えがあたりをつつんでいる

以上の明りを作ってみました。

器具の配置は、マルモライティングニュースNo.29、30を参考にしました。

\* \* \*

ディムパックの目盛りは実際に仕込みで明りをつけてみなければ解りませんが、今回はそれはできませんので、感じだけでやってみました。色の使い方、Qシートの書き方などご指導いただければ幸いです。



●F.U生のQシート

	UH #57	UH #65	LH #0	LH #72	LH #33	SUS #45	SUS #65	SS #45	SS #37 #79	FRU #45	FRU #37 #79
① L.O 水平線が鮮かにくっきり浮き出	100		100		100	100		100		100	
② 夕暮れ あたりが暗くなっていく		100		100	80	70		70	100		100
③ 次の日の午後	100		100		100	100		100		100	
④ 陽が沈みかけている真赤な夕映えがあたりをつつんでいる		70			80	70		70	100		100
LC											
T-15 コンセントNO.	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

## A

# “おれたちの出会い” の照明プラン

（株）東京舞台照明  
薄井 澄夫

F Uさんのプランをたいへん興味深く読みました。これからそのプランと私なりに考えたプランを対比させながら、二・三気の付いた点を述べたいと思います。

## 1. 光の方向性

F Uさんはキーライト（この場合日光及び夕日）を上手から出しましたが、私は下手からを考え

ました。なぜならト書にベンチが上手よりになり、演技はベンチの周囲で行われることが多い場合少ない器具では、遠くより当てた方が充分に当たるからです。

## 2. 光の当て方

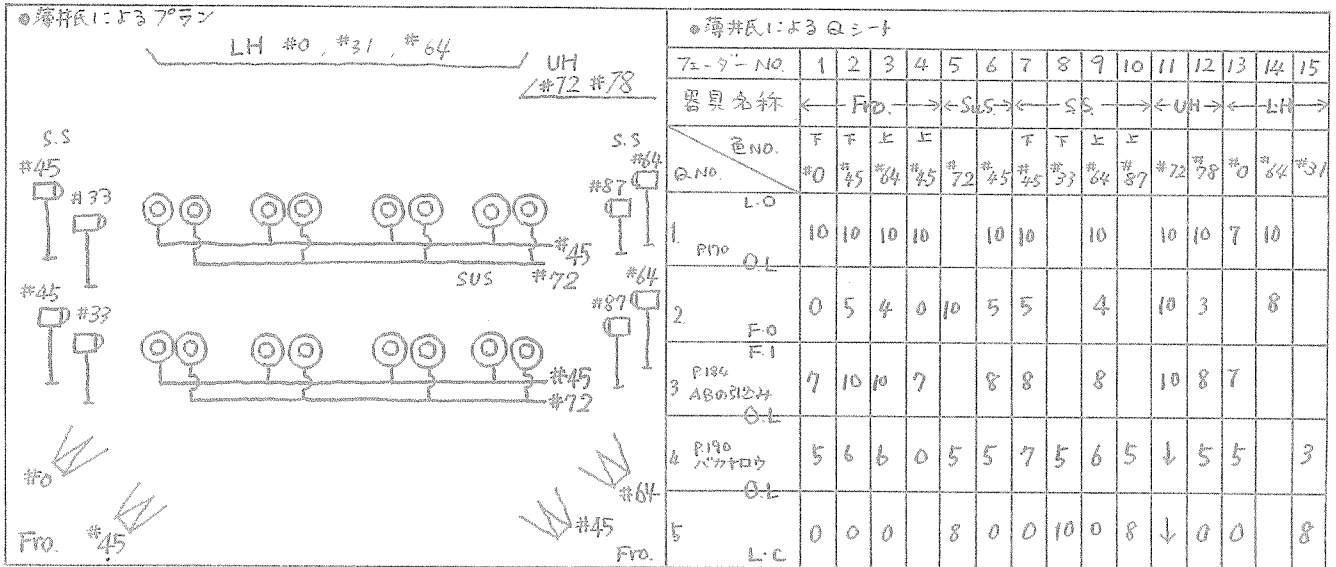
イ、前述のS Sは大きくする。なるべく器具を高く（目の高さ）特に#45はできれば2 m位の高さにしたい。光は演技者の額は充分に当たること。

ロ、U H及びL Hは下から高さのようで、色がまざるように。奥行が少くL Hが水平線に近い場合は、器具の下に板を入れて上に向くようにする。

ハ、S U S、演技者が歩いて、光の穴ができないこと。そのためにはタッパ（舞台面からの高さ）が低い舞台（4 m以内程度）ではサスペンションスポットライトよりフラッドライ

## ● 舞台照明用語 ●

1. 配置器具名称			2. 操作用語		
Fro.	フロントサイドスポット	客席の両側面より演技者を観客に見せる。時には上下の色を変えることによって、光の方向性も表現する。			ト（マルモCEL型）の二種類があるが、演劇では通常ソフトエッジが使用される。配置場所は客席後方で舞台より高い位置が望ましいが、体育館等では距離があるため、フロントサイドスポットの位置でもよい。ただし上下のスポットが二人を追う場合、光は交差させ、上手のスポットは下手の演技者を追うことが望ましい。
SUS.	サスペンションライト	舞台上部より、演技面を明るくする。スポットライトとフラッドライトに大別される			
S.S.	ステージスポットライト	舞台側面より光の方向性及び演技者又は装置の立体感を出すために使用する。その灯具は原則として客席から見えないことが望ましい。			
U.H.	アップパー	天空を表現する。			
L.H.	ロア水平線ライト	地平線もしくは水平線を表現する。U.H.より少し明るめの色で表現した方が、写実的で安定感もある。			
G.L.	シーリングライト	客席の上部に配置する。フロントサイドスポットと同じように、演技者を明るくする。			
F.	フットライト	舞台の前面下部に楕状に配置する。光の方向の点で写実的ではないため、最近ではあまり使用されない。ただし演技者の顔や衣装を明るくするには便利なので、歌舞伎や日舞等では使用される。			
Bor.	ボーダーライト	舞台上部に楕状に配置する。舞台（装置）を全体的に明るくし、雰囲気を描写するのに用いられるが学校の講堂ではフラッドライト（マルモNUC型）を4～5台ずつを2～3回路使用して充分と思われる。			
Follow	フォロースポット	演技者を粒をたてる（強調する）場合と暗い舞台でカバー（演技をよく見せる）するのに大別される。器具は、シャープエッジスポット（ピンスポット）とソフトエッジスポ			
L.O.	Light Open	幕が開くとき、明るいまゝで幕が上がること。			
L.C.	Light Curtain	ライトオープン逆で、明るいまゝで幕が開る。			
F.I.	Fade In	溶明、暗いまゝで幕が上がり、徐々に明るくなる。その変化の早さは、その劇の情景で異なる。			
F.O.	Fade Out	溶暗、フェイドイン逆。時には演技者の一人を強調するために、サス残し、またはフォロースポット残しの手法を行う場合もある。F.I.またはF.O.の手法は、通常よく用いられるが、その場合、その情景とその前後の情景との関連性をよく考えて（時間、場所等）行なうことが望ましい。			
S.I.	Switch In	暗いまゝで幕が上がり、一瞬に明るくする。特殊な場合で、通常はあまり用いない。			
S.O.	Switch Out	C.O. (Cut Out) とも表現される。演技者の演技または、最後のセリフを特に強調する場合等に用いる。			
O.L.	Over Lap	変化すること。この場合、昼から夕方になること等を指す。その変化の早さは、演出者演技者等と充分に打ち合わせる。			



ト (マルモNUC) を4~5台の方が、よいのではないかと思います。

- ニ、Fro、水平線または遠見 (この場合水平線より少し離して海の切り出しを置く) にはなるべく当てないこと。Froの位置が低い場合は舞台寄りに近づけて、上下の袖に光を逃すようにする。ただしFro本来の目的である演技者を明るくすることは忘れないこと。

### 3. 色の使い方

- イ、UH 夕暮れになったときの暗い青が欲しいと思います。
- ロ、SS #37はたいへんおもしろいと思います。ただしLHの#33とはチグハグになるのではないのでしょうか。
- ハ、LH、ロの夕日は別として#0と#72で夕日が沈んだ後を目盛によって描写できると思います。
- ニ、あとは、演出上の考えによって充分に考えられる色の使い方だと思います。

### 4. 変化について

私の場合第一景では意識的に夕日を出しませんでした。写実的ではないように思われますが、第二景の幕切れをより感動的にするためです。このような手法は、常に用いられています。

### 5. 目盛について

FUさんも云っておられるように、これはあくまでも机上プランです。多少の誤差は出て来る

でしょう。それを実際に目で確かめながら、演劇の中の一部分である照明が、演出者その他のスタッフ及び演技者と一体となって、より良い劇作りを心掛けて下さい。

### あとがき

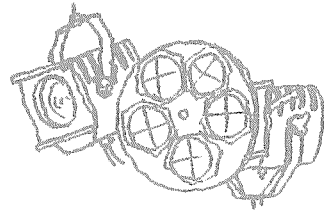
プロとアマチュアの照明プランをお読みになった感想はいかがですか。薄井氏の作品は幕切れをより感動的にするための工夫がなされているあたり、さすがプロだと感心させられます。F・U君も勉強になったと思います。この企画に参加したい方がございましたら脚本、配置図、Qシートを添えて、係までお申し込みください。

●なお、カラーフィルターのNo.は、(株)東京舞台照明発行ポリカラー見本帳18によるものです。

カラーフィルターは現在プラステートは製造中止となり、かわりにポリカラーが販売されています。他にカラーフィルターが何種か販売されていますが、それぞれ色No.が多少変わります。ポリカラーは、使用中色が変わったり、縮んだりすることはありません。ご注文の際は、ポリカラーとご指定ください。

マルモライティングニュース愛読者のために、ポリカラー見本帳を無料でお送りします。ご希望の方は、丸茂電機(株)または(株)東京舞台照明にお申し込みください。

## 大きな財産を後輩に、舞台照明設備 卒業記念の贈り物はコレ!



「照明器具は高くて贅沢」とお考えですか?

卒業生から、舞台照明設備を贈られたある学校では、入学式・卒業式にはもちろん厳かに、講演会はアカデミックに演出し、学生の志気を高揚させることができ、大変喜んでいますが、それだけではありません。学園祭ともなると、演劇部門にはわかにかに活気を帯びるのです。全校生徒が照明の創造的な世界に引き込まれるように、観劇に集まってくる。

それだけに熱気のこもる演技と照明、それにのってくれる観客といった具合に、相互の相乗効果が生まれて、全校的に一つの和ができた、といえます。

その後、この学校の演劇部は、県大会や全国大会に進出していくことができました。照明器具は演劇部だけへの贈り物ではありません。

「情操という名の、後代に残る文化財産です」

\* マルモへお問合せください。皆さんの計画にあわせて相談にのります。また、ご希望の方にはカタログをお送り致します。

- スポットライト C E C 型 1,000W + カラーホイール + アイリスシャッター + スタンド  
1台 ¥96,400
- ピンスポット EQ20 型 1,000W + カラーホイール + スタンド  
1台 ¥163,900
- サスペンションライト  
D F 型 500W スポットライト + ハンガー  
1台 ¥24,700
- T-1 型 500W スポットライト + ハンガー  
1台 ¥18,700
- ボーダーライト B C 型 100W × 36 灯 3 cir  
1列 ¥214,000

(取付費別)

### ● 編集だより ●

● 今年も6月はカラ梅雨、7月に入っても梅雨明けを思わせる猛暑の連日です。6月刊行予定のライティングニュースNo.31をやっと皆様のお手元にお届けすることができました。遅れましたことを改めてお詫びいたします。

● 本号は前進座公演「さんしょう太夫」説教節よりの照明プランを担当しました(株)東京舞台照明・寺田義雄氏の「さんしょう太夫」の照明はこうする」を掲載しました。前進座の「さんしょう太夫」公演は、今年もすでに東京・東北・信越地区で100回以上の公演をおこないましたので、ご覧になった方も多いと思います。9月から、中国・四国・九州地区を中心に公演の予定だそうです。照明の立場から芝居を観るのも楽しいものではないでしょうか。

「さんしょう太夫」の照明についてさらに詳しくお知りになりたい方は、(株)東京舞台照明の宮尾益美氏または照明部にお尋ねください。東京都渋谷区千駄ヶ谷3-51-4 TEL03(404)2611です。

● 「さんしょう太夫」の照明プランナー寺田義雄氏は、照明歴17年、プランナーとしても7~8年のキャリアの持主で、主に前進座の仕事に従事しています。前進座公演の「四谷怪談」「さぶ」「柳橋物語」

などの照明プランを担当しました。

また、今回公演のチーフオペレーター森脇清治氏は、10年前に舞台照明の仕事がやりたくて広島の高校を卒業後、(株)東京舞台照明に入社、主に芝居の仕事に従事、今は前進座を担当しています。チーフオペレーターとして、毎公演違う舞台環境でいかにプランナーの意図に沿った明りを作るか、工夫し、奮闘している毎日だそうです。

● 長野県北部地区高校演劇連盟主催の演劇講習会が、8月19日に中野市小館、県立中野高校体育館にて開催されます。内容は演技およびメーキャップの指導は東京演劇アンサンブル・入江洋佑氏、舞台照明についての解説は(株)東京舞台照明・宮尾益美氏の予定です。

● 前号予告で牛丸光生氏の舞台照明プランの作り方「脚本のよみかた」は、氏のご都合で次の機会に掲載することになりました。次号は山ノ内晴雄氏に執筆していただく予定です。

＊

マルモライティングニュースは無料で皆様にお届けしております。ご希望の方は、丸茂電機(株)までお申し込みください。なお、転勤、転居などで住所変更の場合は、その旨ご連絡ください。

発行 丸茂電機株式会社  
東京都千代田区神田須田町1-24  
〒101 TEL (03) (252) 0321 (代)

このニュースは弊社からお届けします。